

目次

I 『源氏物語』宇治十帖の記憶

第一章	宇治十帖の表現位相——作者の時代との交差——	3
一	はじめに	3
二	『紫式部日記』との対置	4
三	明石中宮方と彰子中宮方の上臈女房	20
四	明石中宮の決断	30
第二章	匂宮三帖と宇治十帖——回帰する〈引用〉・継承する〈引用〉——	47
一	はじめに——宇治十帖の始発	47
二	竹河巻の藏人少将——密通不首尾の引用機構	51
三	宇治の大君・中の君形象の方法	54
四	薫の想い——幻想の恋着	59
五	方法としての浮舟物語	63
六	おわりに——円環の終結	76
第三章	宇治十帖の執筆契機——繰り返される意図——	91

一	はじめに	91
二	『紫式部日記』寛弘六年の記事欠脱	93
三	末摘花巻の位相	101
四	宇治十帖の位相	113
五	おわりに	127
第四章	夕霧巻と宇治十帖——落葉の宮獲得の要因——	139
一	はじめに	139
二	夕霧の恋／薫の恋——心象風景論	141
三	柏木／八の宮——遺言論	153
四	三条宮／六条院——居住論	159
第五章	夕霧の子息たち——姿を消した蔵人少将——	177
一	はじめに	177
二	椎本巻の官名列挙	179
三	夕霧巻々末との対照	189
II	後期物語の記憶	
第一章	後期物語創作の基点——紫式部のメッセージ——	209
一	はじめに	209
二	『更級日記』の「萩の葉」と「笹原」	211
三	紫式部のメッセージ	220
四	『花桜折る中将』の「あたら夜の」歌	224
第二章	挑発する『寝覚』『巢守』の古筆資料——絡み合う物語——	235
一	はじめに	235
二	『寝覚』中間欠巻部——広沢での逢瀬と別れ	236
三	『寝覚』末尾欠巻部——「しらかはの院」での幽閉と脱出	243
四	『巢守』の「しらかはの院」	249
五	おわりに	254
第三章	『狭衣物語』の位相——物語と史実と——	261
一	はじめに	261
二	継子譚としての飛鳥井君物語	262
三	今姫君入内騒動と養女譚	268
四	女二の宮密通事件から王権譚へ	277
第四章	主人公となった「少将」——古本『住吉』の改作は果たして一条朝初期か——	291
一	はじめに	291
二	稲賀説の行方	292
三	広本系『住吉』の「蔵人少将」	293
四	古本『住吉』から『源氏物語』へ	297
五	古本『住吉』と『狭衣物語』	301
六	小一条院詠の存在	306
七	「四位少将」は伊周か	312

第五章 物語の事実性・事実の物語性——道雅・定頼恋愛綺譚…………… 325

一 はじめに…………… 325

二 道雅の恋…………… 328

三 出奔する女…………… 336

四 定頼の恋…………… 341

五 おわりに…………… 352

Ⅲ 道長・頼通時代の記憶

第一章 生き残った『枕草子』——大いなる序章…………… 363

一 はじめに…………… 363

二 源高明の子、俊賢と経房…………… 365

三 高明の孫、隆国…………… 370

第二章 藤原撰関家の家族意識——上東門院彰子の場合…………… 383

一 はじめに…………… 383

二 中宮彰子の猶子敦康親王…………… 384

三 後一条・後朱雀両天皇の母后彰子…………… 393

四 頼通・教通兄弟の確執と姉女院彰子…………… 399

五 おわりに…………… 404

第三章 その後の道綱…………… 411

一 はじめに…………… 411

二 左近衛少将から右近衛大将へ…………… 412

三 異母弟道長との関係…………… 421

第四章 大納言道綱女豊子について——『紫式部日記』成立裏面史…………… 443

一 はじめに…………… 443

二 『紫式部日記』のもう一つの意図…………… 443

三 宰相の君豊子と紫式部…………… 448

四 敦成・敦良両親王の乳母…………… 455

五 東三条院詮子から道長正室倫子へ…………… 465

六 おわりに…………… 476

第五章 『栄花物語』の記憶——三条天皇の時代を中心として…………… 483

一 はじめに…………… 483

二 妍子と城子の立后…………… 486

三 禎子内親王誕生…………… 495

四 三条天皇退位…………… 503

第六章 道長・頼通時代の受領たち——近江守任用…………… 519

一 はじめに…………… 519

二 摂政藤原兼家と左大臣源雅信…………… 520

三 家司受領源高雅と藤原惟憲…………… 525

第七章 大宰大式・権帥について…………… 539

一 はじめに…………… 539

二	物語の中の大式・権帥	540
三	大式藤原有国	546
四	権帥藤原隆家	552
五	大式源資通	559
第八章		
	王朝歌人と陸奥守	575
一	はじめに	575
二	陸奥守源信明と中務	577
三	陸奥守藤原実方と清少納言	579
四	陸奥守橘為仲と四条宮主殿	588
五	おわりに	595
	〔付載〕 頼宗の居る風景——『小右記』の一場面——	603
	初出一覧	611
	あとがき	615